

1341070343-7

2011年 経営学部 卒業

川端 ひとみ

「福島県に足を運んで感じたこと」

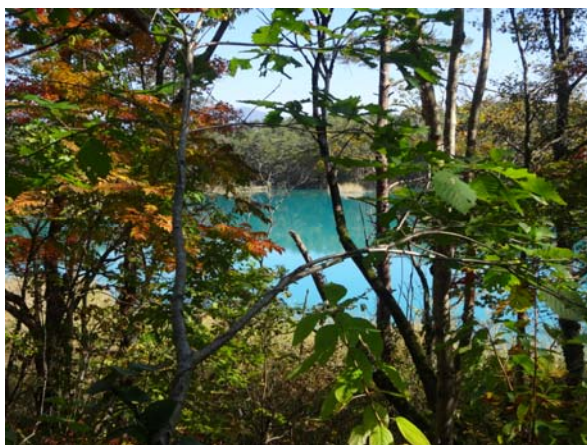
東日本大震災から3年半が経過しました。今回の東北応援ツアーで訪れた福島県は私にとって初めての地でした。このツアーに参加するにあたり、周りの友人、家族などに「もう福島は放射能大丈夫なのか?」「危ないのではないか?」と尋ねられました。「福島=原発」というイメージがある中であえて福島を選んだ理由は、私の地元である福井県も原発立地県であり、東日本大震災後の福島が今どのような状況なのかを知りたい、そしてそこから原発立地県である福井県民として何かしらのアクションを起こすきっかけになればという思いがあったからです。また、福島県で食べて、飲んで、買い物をすることが最初に自分ができる復興支援だと考えたからです。

まず郡山駅に降り立って最初に思ったことは、一見すると東日本大震災の爪痕は見られないということでした。それは最初の研修地、川内村へ向かう道中、そして、川内村でも同様でした。しかしよく見ると、道の端っこで除染をしていたり、汚染土が入っているフレコンが積まれていたり、施設にモニタリングポストが設置されていたり、村内が閑散としていたり、東日本大震災によって福島原発から飛散した放射性物質の影響を受けているということが見えました。移動する道中の中で言われたこと、「目に見えないものを見て欲しい」、それが福島県で被災された方、地元福島が放射線の影響を受けた方の思いであり、今回の東北応援ツアーで学ばなければいけないことであると思いました。



実際に「目に見えないもの」を見て、福島県の復興は進んでいるものの、まだまだできること、しなければならないことがあると感じました。それとともに五色沼や磐梯山などとして

も綺麗な自然があるということをも知ることができました。



私たちにできることは、「福島は今」を正しく伝えることだと思いました。確かにまだ放射線濃度が高いところもあります。でも、福島県全体がそういうわけではないということ、豊かな自然や美味しい食べ物、美味しいお酒があるということを広めなければならぬと強く思いました。私がお土産を買って帰ったところ、知人に「放射線大丈夫？」と聞かれたり、「防護服みたいなを着て川内村入ったの？」など色々なことを聞かれました。でも、私は実際に経験したことを話し、「安全だよ」ということを伝えました。そうすると、「そうなんだ」と納得してくれました。最初に述べた自分自身が思う福島県で食べて、飲んで、買い物をすること、そしてこのように実際に福島に行った経験をたくさんの人に話すことが私たちが身近にできる復興支援だと考えるようになりました。また機会があれば、是非福島に行きたいと思います。

今回のツアーでお世話になったツアー企画者のみなさま、福島県校友会のみなさまをはじめ関係者のみなさまに厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。